



ハートフルナース

日本の看護と

日イの看護文化の違い

JAMNA 研究員 小笠原広実



外国人の看護師国家試験の合格率が低迷している問題について、日本語習得レベルに注目した議論が多く行なわれて

いますが、日本の看護に必要な看護実践能力にはあまり注目されていません。

しかし JAMNA ではこれまでも、インドネシア人に理解してほしい日本の看護の長所として「患者の意思を尊重すること」「自立を促し本人の力を発揮させる重要性」などについて指導を重ねてきました。

さらに、看護の考え方の違いに着目するために、支援対象者が全員不正解となった試験問題について分析を行ない、指導に活かしています。たとえば、「足浴の湯の温度についての問題」です。インドネシアでは足浴ケアはほとんど行うことがなく、心地よいと感じる温度にも日本人とは差があるようです。そこで、清潔のためだけでなく、血流を良くしリラックスしてもらう目的があることを伝えていきます。また、「小学生の偏食への食事指導に関する問題」では、一方向で教えるだけでなく、「自分自身の食事内容の偏りに気づかせる」といった日本で行う関わり方の大切さを伝えていきます。ほかに「病院から退院

後の継続看護の問題」「高齢者の補助・福祉用具の選定」など試験問題でも日本とインドネシアの看護文化の違いは大きく、これまでより丁寧な指導が必要と感じています。

看護国際学会で発表



左から、EPA 第一陣看護師候補だった BIBEN さん、野崎教授、小笠原研究員

インドネシアバンドンにある、パジャジャラン大学看護学部国際学会に出席し、順天堂大学医療看護学部教授の野崎真奈美先生との共同研究で、介護サービスや福祉制度に

焦点を当てた発表を行いました。日本の高齢者看護では、在宅生活にむけてこれらの理解はより重要になっていきますが、インドネシアとは全く異なる制度であり、外国人看護師がどのように学べばよいのかということも、改めて今後の課題と感じました。



新しく JAMNA に入職いたしました、立川と申します。
会員の皆様には、事務局の対応等でお世話になるかと存じます。
何卒よろしくお願ひ申し上げます。